

1. 「尚円王乗馬像」 建立除幕式



建立日 2014年12月15日(月曜日)

場所：伊是名村尚円王通水節(かいみじぶし)公園内

～北の松金(にしぬまちがに)物語～

尚円王は青年期まで、首見邑((しゅみむら)現在の伊是名村字諸見)の「首見の比屋」の庇護を受けていたと言われ、住まいが首見の比屋宅の北(にし)の方角にあることから、「北の松金(にしぬまちがに)」と呼ばれたそうであります。

その頃、勢理客邑(じっちゃくむら(勢理客区))は島一番の華国と讃えられ、夜ごと若者達が集まる華やかな邑でありました。当時、通水(かいみじ)は、勢理客邑に通う唯一の山道で、大木が鬱蒼と生い茂り、昼間でも暗く、大変寂しく険しい山道でありました。北の松金は、その険しくて、寂しい通水の山道を愛馬にまたがり、恋人逢いたさに勢理客邑(勢理客区)へ通ったと伝えられています。

寂しさ、切ない熱い思いを詠った「通水の山や 一人越てしらぬ 乗馬と鞍と 主と三人」(通水の山は一人で越えても、誰も知る人はいない。知っているのは、乗馬と鞍と主人である自分の三人だけだ)という歌が、今に歌い継がれている、琉球古典音楽の「通水節」であります。

尚円王への尊敬と憧れ、親愛の念を込め、尚円王生誕600年祭を記念し、若き北の松金像を尚円王通水節公園内に建立し、新たに整備された公園です。

(参照資料：伊是名村資料)

2. 史劇「尚円王～松金がゆく～」



公演日：2015年3月22日(日曜日)(決定)、他複数回公演(予定)

場所：西原町町民交流センター「さわふじ未来ホール」

琉球王国の歴史を語る上で、最も重要な人物の1人である「尚円王」。伊是名村では、この偉大な人物への尊敬と憧れ、そして親愛の念を後世まで語り継いでいくために、「村民自らによる史劇」に取り組みました。

伊是名島で生まれ育った青年が、農民の子から一国の王なるまで歩んだ道。それを伊是名村出身の歴史家・高良倉吉氏を監修として迎え、新たな歴史解釈の元書き下ろされた脚本は、県内はもちろん県外でも話題を呼びました。

村民を中心にキャスティングされた史劇「尚円王～松金がゆく」は、平成19年から21年まで公演し、村として総務大臣賞も受賞するなど大変高い評価を頂きました。

そして2015年、尚円王生誕600年祭を迎えるにあたり、キャストを一新して再びプロジェクトが動き出しています。尚円王生誕600年祭 史劇「尚円王～松金がゆく～」いよいよ公開です。

(参照資料：2012年伊是名村勢要覧)

3. 公事清明祭



開催日：2015年4月3日(金曜日)

場所：伊是名村玉御殿(いぜなそんたまうど^{にじゅうしせつき}ん)

沖縄では毎年4月(旧暦3月)の「清明(二十四節気の1つ)」の節に入ると、あちらこちらの墓前で家族や門中一族が揃い、お墓の掃除をして祖先供養の行事が繰り広げられています。これが「シーミー(清明祭)」の風景です。

1870年、琉球王府は伊江王子を代表とする使節団を伊是名島に派遣し、首里玉陵で行われているのと同様な「公事清明(クージ シーミー)」を執り行うよう四殿内に指導しました。以後、首里風の格式あるシーミーが執り行えるよう、必要な祭祀道具類とマニュアルを示して行かせたのが、伊是名島の「公事清明」の始まりだそうです。戦前までは、首里に残った尚家関係者も伊是名島での清明祭に参列し、それから首里玉陵での清明祭を行ったといわれています。

伊是名城の麓に玉御殿(タマウドゥン)と云う墓陵があり、尚円王の親族が葬り祀られています。その玉御殿には、尚円王の父母、尚円妃、姉、あんがなしー(姉の子孫)、叔父、銘苺大屋子(叔父の子孫)、叔母、二かや田の阿母(叔母の子孫)たちが葬られています。さらに、2005年に尚家第22代目の当主尚裕氏(10月17日)、井伊文子氏(8月17日)きょうだいが埋葬されています。

現在の公事清明祭の主催は伊是名村に引き継がれ、祭具は伊是名村ふれあい民俗館に展示されている、首里王府からの拝領品である実物の祭具を用います。首里王府の清明祭が途絶えている現在、伊是名村の清明祭は、後世に永く伝えていく必要がある、大変貴重な行事となっております。(参照資料：伊是名村教育委員会資料)

4. やんばる駅伝伊是名島大会



開催日：2015年5月予定

場所：伊是名島内

やんばる駅伝大会は伊江島・伊是名島・伊平屋島の離島の地域振興、やんばる地域のスポーツ振興の目的で平成3年から開催されています。第1回大会は11町村でのスタートでしたが、その後名護市、鹿児島県の与論町、沖永良部島の知名町も加わり、現在では奄美やんばるの広域圏の大会となっております。

本大会の特徴は男女、年代別の混成チームで各区間を競い合います。また、大会開催地は伊江島、伊是名島、伊平屋島、与論島の4離島での持ち回りとなっており、各離島の歴史、文化、自然を感じながらレースを行います。各地域の総合チームで競い合うため、毎年情熱的なレースが展開され、やんばる地域へスポーツを通じた地域振興という重要な役割を果たしております。

第25回目を迎える本大会は、尚円王生誕600年祭という、記念すべきめでたい年に伊是名島で開催され、島全体に存在する歴史・文化財を感じながら競い合う、熱いレースになることが期待されています。

(参照資料：第24回 やんばる駅伝競走 伊江島大会資料)

5. 伊是名村新フェリー就航記念祝賀会



就航日：2015年7月就航予定

場所：伊是名島内

伊是名村観光のための交通手段「フェリー」。今まで長い間観光客、村民の交通手段として活躍して来たフェリーを、この度パワーアップさせ新しく就航致します。就航するフェリーは350名乗り(最大500名乗り)になり、授乳室の設置、人に優しいことを前提としたゆとりを持ったスペース確保、バリアフリー高度船化基準を満たし、更には快適な船旅を提供するため、横揺れ防止装置(フィンスタビライザー)を装備しています。

伊是名島が好きな皆さん、伊是名島に興味がある皆さん、伊是名島を一度は訪れてみたい皆さん。新しいフェリー就航のこの機会に、新鮮な船で是非、伊是名島にお越し下さい！！

6. 尚円王生誕 600 年祭メインイベント「生誕祭」



開催日：2015年8月14日(金曜日)15日(土曜日)16日(日曜日)

場所：伊是名島内

2015年（平成27年）8月14日（金曜日）15日（土曜日）16日（日曜日）は、いよいよ年間のメインイベント「尚円王生誕600年祭」です。1415年首見邑（現在の伊是名村字諸見）で百姓の子どもとして生まれた北の松金（後の「金丸」、「尚円王」）は、24歳で島を旅立ち、その後尚巴志の五男、越来王子（後の「尚泰久王」）に見出され、琉球王府の役人となりました。直ちに頭角を現し、38歳で黄冠、40歳で内間領主（現在の西原町）、45歳で当時の王府の財政と外交を担当し、御物城御鎖側（貿易長官）に就任し、みるみるうちに出世をしていきました。

その後王位を継いだ尚徳王と相容れず、内間御殿（現在の西原町字嘉手苅）に隠遁しましたが、尚徳王が亡くなった後、群臣達から推され1470年王位に就きました。その綺羅星の如く輝く才能と人々から愛される人徳で、その後明治5年の琉球藩、明治12年の廃藩置県まで、19代約410年間の永きに亘り琉球国第二尚氏王統の基礎を築きました。

豊かな才能と万人から愛された人徳により、小さな島の百姓から琉球国の国王まで昇りつめ、彗星の如く輝いた稀代の偉人を、敬意と親愛の念を込めて生誕600年祭を祝います。

7. いぜん88トライアスロン大会



開催日：2015年11月1日(日曜日)

場所：伊是名島内

いぜん88トライアスロン大会は1988年に第1回大会から毎年行われ今年で28回目になる長寿イベントです。88の名前の由来は1988年に第1回大会が開催されたこと、長寿イベントになる様米寿の祝いに肖ったこと、八八の漢字から、競技としての裾野が広がり、スポーツを通して広く地域振興に繋がる様願った事から来ています。

伊是名島の島人は古来から、理財観念がしっかりしており、内面は大いに進歩的でした。社会的にはそれぞれが出来る範囲内で誰に対してもおもてなすことを心掛けていました。それは日常生活の中から自然と滲み出た人情味溢れた真心のもてなしでした。こうした日常生活から人情味溢れて、自然とおもてなして振舞うという精神は今でも生きています。

いぜん88トライアスロン大会は、誰でも家族のようにおもてなすという特性を活かした大会です。選手が来島する際は、選手一同を村長、村民が総出で歓迎します。また、大会は、村民総出でボランティアで運営します。選手の宿泊先も村民の各家庭に宿泊する「民泊」を活用し、大会期間中は選手と村民が共に家族として過ごします。

こうした交流が大会参加者リピート率8割という高い実績を誇っており、伊是名村民の誇りとなる大会となっております。

(参照：第25、26、27回いぜん88トライアスロン大会資料)

8. 史曲「尚円」



公演日：調整中

場所：伊是名村内

史曲「尚円」は音楽家の普久原恒勇先生が、首見邑(現在の伊是名村字諸見)に百姓の子として生まれ、やがて琉球国王まで昇りつめた「北(ニシ)ぬ松金(のちの金丸、尚円王)」の誕生から国王即位までの波乱の生涯を、壮大なスケールで作曲し、描いた一大叙事詩です。

高良倉吉先生が原案を作成し、普久原恒勇先生が伊是名村史等の資料を元に作曲し、壮大な民族音楽が完成しました。

初演は1995年11月24日沖縄市民会館大ホールにて公演し大成功を収めました。その様子はNHKでも収録放映され、当時大きな反響を呼びました。また、同年12月10日には、伊是名村「金丸(尚円)」銅像除幕祝賀会において再演され、伊是名村民の誇りとなる曲となっています。

壮大で情熱的な音楽で尚円王を描いた史曲「尚円」。2015年尚円王生誕600年祭を記念して、いよいよ再び公演です。(参照：普久原恒勇音楽事務所資料)